

令和5年度第2回加東市いじめ問題対策連絡協議会次第

日時：令和6年2月14日（水）

10時00分～

会場：加東市役所2階202会議室

1 開会

2 議事

(1) 令和5年度いじめの状況について

(2) 加東市立学校のいじめ防止に関する取組について

(3) 関係機関との連携について（最近のいじめ事案について）

(4) いじめ重大事態について

3 閉会

令和5年度 加東市いじめ問題対策連絡協議会 委員

(任期) 令和4年4月1日から令和6年3月31日 (2年間)

所属等		役職	氏名	備考
1	兵庫県加東こども家庭センター家庭支援課	児童福祉 専門員	島谷 博	(4)加東こども家庭センター
2	神戸地方法務局社支局 総務係	係長	福嶋 大助	(5)神戸地方法務局社支局
3	兵庫県加東警察署 刑事生活安全課	係長	篠田 泰輔	(6)兵庫県加東警察署
4	加東市立社中学校(校長会生徒指導担当)	校長	平川 真也	(1)加東市立学校
5	加東市 健康福祉部 福祉総務課	副課長	鷹尾 有紀	(7)市関係課
6	加東市教育委員会事務局 こども未来部学校教育課	参事兼課長	井上 聡	(2)加東市教育委員会事務局
7	加東市教育委員会事務局 こども未来部 学校教育課 青少年センター	所長	花田 和典	(3)加東市青少年センター
8	加東市立学校	スクールソ シヤルワーカー	宮脇 千恵	(8)前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める機関及び団体に所属する者

事務局		役職	氏名	備考
1	加東市教育委員会	教育長	藤原 哲史	
2	加東市教育委員会事務局 こども未来部 学校教育課	係長	森本 恭央	

令和5年度 いじめの状況について

○いじめ認知件数（令和5年12月末時点）

小学校：147件　中学校：17件　合計：164件

○経年比較（数値は各年度12月末時点のいじめ認知件数）

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小学校	177	109	236	168	147
中学校	29	28	22	21	17
合計	206	137	258	189	164

○いじめの定義

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人間関係にある他の児童生徒が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」（いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）。第2条第1項）をいう。

○いじめ認知件数

「認知件数」には、各年度間において、上記の定義に該当するいじめを受けたことが認知された児童生徒ごとに1件として数える。この際、同一の児童生徒が異なる時期に別の児童生徒からいじめを受けていても1件として扱う。（児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査（毎年度文部科学省調査）の注釈より）

○分析

- ・昨年度同時期と比べて、いじめ認知件数（合計）は25件（約13.2%）減っている。
- ・学校種別に比較すると、小学校のいじめ認知件数は21件（12.5%）減っており、中学校のいじめ認知件数は4件（19.1%）減っている。
- ・経年比較を見ると、令和5年度いじめの認知件数は、コロナ前の令和元年度の認知件数より42件（20.3%）減っている。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防対策として、臨時休校期間を設けたり、子供同士が接触する機会が例年より減ったりしたことによる認知件数の減少が見られた。

令和3年度は徐々に元通りの活動に戻り、子供同士の触れ合う機会が戻ることにより、子ども同士の関わりが増えたこと、また小学校段階では年齢が低いいため、コロナ不安や軽微なトラブルでも、嫌な気持ちになり、いじめを訴えた子どもが増えたのではないかと分析する。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が与えた影響が徐々に薄れつつあり、新型コロナウイルス感染症が発症する前の段階に戻りつつあると分析する。

令和5年度までの経年比較を見ると、新型コロナウイルス感染症前の令和元年度の件数より小学校はコロナ禍を経て増加した年もあったが全体的に見ると減っており、特に、中学校においては、いじめ認知件数は減り続けている。このことから、これまで取り組んできた児童会・生徒会・学園生会が中心となり、児童生徒が主体となったいじめを防止する多様な活動を行うなどのいじめ未然防止対策の効果が少しずつ現れてきていると考える。

引き続き、いじめはどの学校にも起こり得るという危機感を持ち、また、児童生徒が困っていることを相談しやすい体制を作る必要がある。

○いじめを早期に把握し、未然防止する取組

- ・市教育委員会主催で年3回、学校生活実態把握調査を実施し、いじめを早期に発見する手立てを講じている。また、各学校が独自に困ったことを書ける生活アンケートを定期的実施している。
- ・今年度2回目の学校生活実態把握調査では、担任外の教員が調査した。担任外の教員も子ども達の困りごとを共有する有意義な調査機会となり、次年度も担任外教員による調査を定期的実施する。
- ・加東市いじめ防止基本方針、各学校で定めたいじめ防止基本方針のもと、「いじめは、どの学級にも学校にも起こり得る」という認識をすべての教職員がもち、好ましい人間関係を築き、いじめや差別を許さない学級集団を育て、「いじめを生まない土壌づくり」に取り組む必要がある。教職員の気づき、意識調査等を通じて、いじめの早期発見、早期解決に取り組む。
- ・未然防止の取組として、各校の児童会・生徒会・学園生会代表者が、自校のいじめ防止取組を交流したり、いじめ問題の解決に向けて話し合ったりすること、また、教職員が居心地の良い学級づくりの研修を行うことで、児童生徒と教職員が両輪となり、一人一人を大切に学校・学級づくりを目指す。

加東市立学校におけるいじめ問題防止活動実施要項

- 1 趣旨 加東市いじめ防止基本方針（平成 26 年 4 月策定）「1 いじめの防止等の対策に関する基本理念」において、いじめは深刻な人権侵害であり、場合によっては、その生命や身体に重大な危機を生じさせる恐れがあるという認識のもと、子どもたち一人ひとりの人権が尊重され、いじめを許さない学校づくりのため、各学校において教職員が一体となった取組の充実を図っていることを示している。

また、「4 いじめ防止等に関する具体的対策(1) いじめの防止」において、児童生徒の主体的な活動の推進として、児童会や生徒会活動等において、児童生徒自らが主体的にいじめ撲滅や命の大切さを呼びかける取組を推進するとしている。

そこで、「いじめを許さない」を合言葉に、児童生徒が主体となり「自分たちができることは何か」等を考え、いじめ問題を自分の事として捉えて、行動する機会を設定し、多様な取組を推進する。

- 2 対象 市立全学校

- 3 内容 児童生徒が主体となったいじめを防止する多様な活動を行う。ただし、いじめゼロを達成目標とするのではなく、「いじめを許さない」「困ったときには相談する」「一緒に解決しよう」等のメッセージを教師だけでなく子ども達からも発信するような活動とする。

○取組例

- ・各校の生徒総会、児童集会等で「いじめを許さない宣言」をする。
- ・普段から行っている児童生徒会活動（異学年活動、あいさつ運動等）において、児童生徒のリーダーが、気になる子に声をかける等の要素を取り入れた活動に拡充する。
- ・児童生徒会で、いじめ問題防止標語を募集し、児童生徒会通信等で配布する。
- ・「いじめをなくすには、どうするか」等を委員会活動等で意見交流し、全校集会等で発表、いじめ防止啓発をする。
- ・学校が行っている毎月の「困ったことカード」に困りごとを書きやすくするために、児童生徒の意見を取り入れる。

- 4 実施計画及び報告について

- ・各校の取組を別紙計画書に記入し、加東市教育委員会（担当：森本）まで提出する。また、実施後に別紙報告書を提出することとする。
- ・なお、各校の計画書及び報告書は、いじめ問題連絡協議会の会議資料とするため、公開資料となる。

- 5 その他

- ・令和 4 年度以降は、各校の取組を児童生徒が地域ごとに報告、検討し合う「児童生徒会代表者ミーティング」を実施する。

加東市立学校におけるいじめ問題防止活動実施報告

学校名	取組名
社小学校	元気 やる気 勇気100% 笑顔 かがやく 社っ子
福田小学校	福田っ子 み・え・るに挑戦！カップ ～みんなで協力 えがおであいさつ ルールを守る福田っ子～
米田小学校	心一つに支え合う米田小を目指して ～みんなが笑顔の学校に～ ・全校話し合い集会 ・友達のいいところ見つけ
三草小学校	いじめの芽に目を向ける ～全員が居心地のいい場所をともに作り、心をつなぐ～
鴨川小学校	鴨川小ハッピープロジェクト ～啓発マンガといいところ手帳を通して～
滝野東小学校	友達プロジェクト ～友達を大切にしてみんなの中を深めよう～ (全校バザー集会の活動を通して)
滝野南小学校	つながろう！南っ子の 輪 ・ 広げよう！ふわふわ言葉の 和
社中学校	いじめを見逃さず、早期発見するための取組 ～生徒と考える、困ったことカードの工夫～
滝野中学校	広げよう思いやりの輪 ～前向きな活動からいじめをなくそう～
東条学園小中学校	「3つのステージのつながりとまとまり」を深め、いじめ防止に努める取組 ～学校行事での児童生徒の主体的な活動を通して～

加東市立学校におけるいじめ問題防止活動実施報告書

1 実施報告

学校名	取組名
(社小) 学校	元気 やる気 勇気100% 笑顔 かがやく 社っ子

(1) ブロック朝会の取組

- ・月に1回、縦割り（赤・青・黄ブロック）で朝会を行う
 - ・運営委員が司会、進行
- 〈内容〉
- ・学年発表
 - ・委員会のお知らせ
 - ・6年生主体の啓発活動



(2) 啓発活動「名探偵ヤシロー」の活躍

6年生が学校をよりよくしていくために、「名探偵ヤシロー」に扮して、事件を解決したり、こうしたほうがいいよということを教えたりする。3つのブロックごとに発表の仕方を工夫している。



黄ブロックの様子 テーマ「あいさつ」



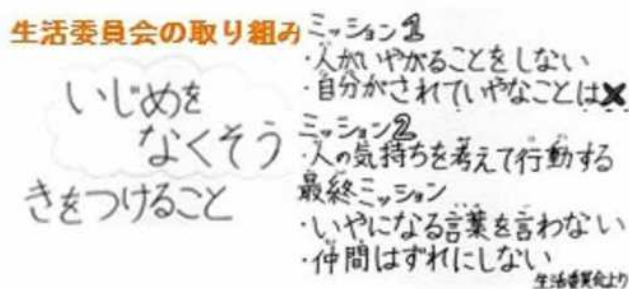
青ブロックの様子 テーマ「思いやり」



ヤシローのテーマ「あいさつ」「思いやり」「協力」「新年の目標」など

(3) 委員会のお知らせ

生活委員会では、「いじめをなくそうキャンペーン」をして、全校生が友達を傷つけずに大切にしようと取り組んでいる。



2 成果と課題

(1) 児童生徒の感想

- ・(ヤシローの劇をして) 今まで人前でしゃべったことはなかったので、とても緊張しました。でも、その後、達成感がありました。みんなの笑顔が嬉しかったです。
- ・(ヤシローの劇を見て) あいさつははずかしい気持ちはあるけど、あいさつを言ったほうがお互い気持ちがいいことがわかりました。

(2) 成果

- ・ブロック朝会の6年生の司会や発表がとても良かった。5年生にとってもよい見本になっていた。
- ・ブロック朝会で、6年生は学校生活の見直しについて下級生にうまく伝えていた。
- ・6年生が低学年に優しく接しているのが、微笑ましかった。ヤシローを楽しみにしている児童が多かった。

(3) 課題

- ・ブロック朝会では、全校生へ啓発したいことや高学年として伝えたいことなどを「ヤシロー」の出し物で常に伝え続けられた。高学年としてお手本にならなければという自覚はもっている。ただ、それが伝えるだけに終わり、実際の生活に生かし切れていない場面もあることが課題である。
- ・今年度は、張り切りすぎて、達成感はあったが準備が大変になりすぎた。

加東市立学校におけるいじめ問題防止活動実施報告書

1 実施報告

学校名	取組名
社中学校	いじめを見逃さず、早期発見するための取り組み ～生徒と考える、困ったことカードの工夫～

2 成果と課題

(1) 児童生徒の感想

①生徒からの「困ったことカード」の内容改善案

- ・生徒が相談できる先生は担任・副担任だけとは限らないので、相談できる先生を選べる方が困っていることを打ち明けやすい。
- ・「○」「×」だけでなく、少し困っていることとして「△」でも答えられるようにすれば、「小さな悩みでも書いて良いんだ」と思える。

R5	1年	2年	3年
4月	4	1	0
5月	5	0	0
6月	1	0	0
7月	11	6	0
9月	3	0	0
10月	6	2	0
11月	7	4	0
12月	5	3	1
1月	0	1	0
合計	42	17	1

②改善した「困ったことカード」に対する生徒の反応

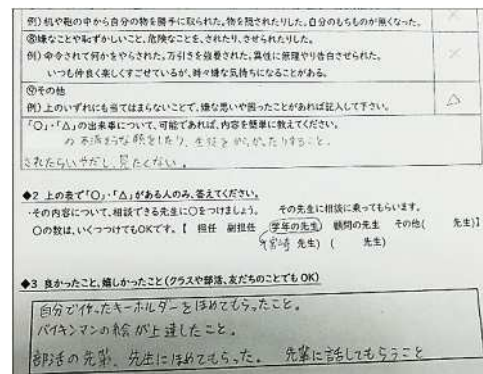
- ・少し嫌なことでも、△があったので書きやすかった。
- ・相談できる先生の幅が広がったから、気持ちが楽になった。

(2) 成果

- ・1・2年生は、これまで1～4・5件の困ったこと事案が上がっていたのが、カードを改善した7月には1年生11件、2年生6件と、生徒の困っている声を拾い、相談にのることができた。

(3年生はカード改善前と変わらず0～1件)

- ・生徒の悩みや困っていることについて、担任・副担、部活顧問や学年教師だけでなく、その生徒が感じる「相談しやすい先生」にも相談できるシステムにすることにより、相談できる先生の選択肢が広がり、安心感を持たせることができた。また教師側も、学年等を越えて様々な先生が関わったり情報共有できるので、たくさんの目で生徒を見守ることにつながられた。



(3) 課題

- ・依然として「困ったことカード」では拾い切れない事案が多い。生徒が困ったことを記入しやすいように、記入する項目や「いつ」「どこ」で書くかなど、様々な点でアップデートし続けていく必要がある。